



サイジャーナル

月刊
28-3・4
第426号

日本サイ科学会 平成 28 年 3 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒466-0051 名古屋市昭和区 御器所3-4-21 眞 野 博 貴 ☎・FAX 052 (871) 9060	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒596-0807 大阪府岸和田市 東ヶ丘町808-153 河 野 明 夫 ☎ 072 (445) 7737・FAX 072 (445) 7796	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
--	---	--	--	---

四月本部例会のお知らせ

神々の謎

講師 沖田 祐美子氏

私は長い間、神社や聖地を巡っている内に、神社のご由緒と記紀神話の内容が食い違っているケースが多々あることに気づき、記紀神話の内容に疑問を持ち始め、独自の調査を始めました。

天皇家の祖神をお祀りしている伊勢神宮に、明治天皇以前の歴代天皇の参拝がないこと、皇位継承の証である三種の神器の内、八咫鏡・草薙剣は天皇でさえもその実見はなされていけないこと等数々の疑問についても、記紀神話で語られている神武東征や出雲の国譲りから見えてくる歴史とはまた違った、敗者側の出雲神族の末裔に口伝で伝えられている一子相伝の歴史を手掛かりに、伊勢神宮と出雲大社、天津神と国津神の関係、古代ユダヤやシメール、龍族と牡牛族の関係にまで敷衍して、独自の論を展開して行きたいと思えます。

◎事務局からのお知らせ

今月は年度替わりですので、「会費納入のお願い」の通知と郵便振替用紙が同封されています。いろいろ出費の多い時期で恐縮ですが、日本サイ科学会の活動は皆様の年会費で支えられておりますので、早めのお振り込みをよろしくお願い致します。恐縮ですが、御寄付をしていただける方は郵便振替用紙にその分を記入し、年会費に追加して、お振り込み願います。

※3月の本部例会はお休みとなります。

古文書、絵図、石版の写真等を多用し、視覚的にも理解しやすく楽しめる内容となります。

※昨年のスピリチュアル研究分科会でも講演されましたが、大変興味深い内容で、本部例会でじっくり時間をかけてお話ししていただきますので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

今月号の記事

- ◎ 四月本部例会のお知らせ
- ◎ 御寄付御礼
- ◎ 計報
- ◎ 関西サイ科学会三月四月五月研究集会のお知らせ
- ◎ 中部日本サイ科学会三月研究集会のお知らせ
- ◎ 北陸日本サイ科学会三月研究集会のお知らせ
- ◎ 九州日本サイ科学会四月研究集会のお知らせ
- ◎ 第27回宇宙生命研究分科会のお知らせ
- ◎ 第4回スピリチュアル研究分科会のお知らせ
- ◎ 創立40周年記念大会発表者募集
- ◎ 「不思議な写真」の募集
- ◎ 平成26年9月本部例会報告
- ◎ 平成28年2月本部例会報告
- ◎ 第四〇一回関西サイ科学会報告
- ◎ 第四〇三回関西サイ科学会報告
- ◎ ミクロ・オーブの発見について

◎ 沖田祐美子氏のプロフィール
石川県出身、早稲田大学卒業。
2003年頃より周囲に不思議な現象が起き始め、スピリチュアルな目覚めを促される。

不思議な能力を持つ霊能者、密教僧侶、陰陽師等との出会いを通して、本格的に霊性向上を目指す。外資金融を退職し、バリ島、インド、ヒマラヤ等を数年かけて歩き、霊的探究を行う。

現在、社会福祉系相談員を行う傍ら、日本全国の神社仏閣、聖地、聖山を巡り、古代史の調査や磁場調整等を行う。

日時 平成28年4月9日(土)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ7階第一研修室

交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

◆ ◆

※5月14日(土)の本部例会講師は河野貴美子氏の予定です。

※6月26日(日)の本部例会講師はエスパー・小林氏の予定です。

「心を科学する博物館」と一般の御寄付御礼 (2/13受領分まで)

金二万円也 佐藤 禎花 様
金一千五百円也 小牧昭一郎 様
金一千円也 濱田 敏博 様

訃報

日本サイ科学会顧問の窪田啓次郎先生が平成28年2月5日、心不全により、90歳で逝去されました。

窪田先生は、成蹊大学名誉教授(通信工学)で日本におけるFAX(ファクシミリ)の研究、開発にも貢献されました。

また、サイ科学分野では永年、「リモートビューイング」の調査研究を続けて来られました。心からご冥福をお祈りいたします。

関西日本サイ科学会 三月研究集会のお知らせ

命をつなぐ

講師 畑田 天真如氏

日時 平成28年3月19日(土)

午後1時30分～5時

会場 大阪科学技術センター

七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 韮公園内

会費 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

問合せ072・445・7737
関西日本サイ科学会まで

関西日本サイ科学会 四月研究集会のお知らせ

秘密NIPPONの超建国裏返史

講師 上森 三郎氏

日時 平成28年4月16日(土)

午後1時30分～5時

会場 大阪科学技術センター

七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 韮公園内

会費 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

関西日本サイ科学会 五月研究集会のお知らせ

本居宣長の「古事記」解釈はちと誤っていた！観点を交える「古事記」から本当の古代の史実が見えてくる！比較言語学も駆使して読み解く日本人の本当のルーツ！

講師 坂井 洋一氏

日時 平成28年5月21日(土)

午後1時30分～5時

会場 大阪科学技術センター

七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 韮公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

問合せ 072・445・7737



中部日本サイ科学会
三月研究集会のお知らせ

会員数名の研究・体験発表

日時 平成28年3月12日(土)

午後1時～5時

会場 博愛癒院ホール

名古屋市昭和区御器所3・4・21

交通 地下鉄鶴舞線荒畑駅下車

3番出口から徒歩1分

会費 一〇〇〇円(会員・一般)

※会員以外の方の参加も大歓迎

問合せ 052・871・9060



北陸日本サイ科学会
三月定例会のお知らせ

水のはなし

水と若さと健康と

講師 久保田 昌治氏

(理学博士・日本サイ科学会
理事長)

水の基礎とともに人体で体重の70%という最も大きな割合を占める体内の水の重要性について語る。この70%の水をどうするかで健康の維持・増進はもちろんのことア
ンチエイジングも可能になってくる。

水道水を始め浄水、純水、超純水、ミネラルウォーター、アルカリイオン水、ロックウォーター、機能水、さらに最近注目されている水素水まで広く水について述べる。

日時 平成28年3月27日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 ホリステイック健康科学

研究所 研究室

(金沢市高岡町12-45)

ロイヤルシャトー南町1階

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

※会員以外の方の参加も大歓迎

お問合せ・お申込み

076・234・6634



九州日本サイ科学会
四月研究集会のお知らせ

参加者の皆様と勉強会

講師 森安 政仁氏

日時 平成28年4月10日(日)

午後1時～4時

会場 森安商店

長崎県西彼杵郡長与町本川内16・6

問合せ 095・883・6048

交通 JR長与駅下車徒歩20分

長崎バス 洗切小学校前

下車徒歩2分

会費 無料

※人生相談も伺います

※会員以外の方の参加も大歓迎



第27回宇宙生命研究分科会

第8回ヒボクラテスシンポジウム
テーマ「スピリチュアル・ヘルス
..霊性と健康」

日時 平成28年3月27日(日)

10時30分～17時45分

会場 品川健康センター3会議室

(品川区北品川3・11・22)

03・5782・8507

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

JR京浜東北線大井町駅東

口から東急バス「渋谷駅」行

で「新馬場駅前」下車

会費 会員 一〇〇〇円(日本サイ

科学会・サトルエネルギー学会)

一般 二〇〇〇円

(世話人 阿久津 淳)



第4回スピリチュアル研究
分科会のお知らせ

大いなる存在との不思議な
出会いから目覚めて

講師 大石 陽子氏

(スピリチュアルヒーラー)

霊能者というよりシャーマン(高次元の神霊などと繋がり、直接交流する役割を担った人)と呼ぶに相応しい方です。ある時、大いなる不思議な存在と出会ってから高次元のエネルギーの波動を媒介として知人たちにヒーリングを施すようになり、病院では治らない病気とか憑依による霊障、さらに運の悪い人や人生をネガティブに歩んでいる人にも光明を与えて元気をとり戻したと感謝され、世のため人のためにその使命を負っているものと自覚されています。

ヒーリングによる癒しやサイコメトリー(物に残る人の残留思念を読み取ること)などの実演を披露し、さらに花々からのメッセージを受けとる方法などをお伝えして、一人ひとりの意識が靈性に目覚め、世直しの大きなうねりへと広がっていったらと願われています。

体調の思わしくない人、霊障ではないかと思われる人、不運続きの人などは必見です。

○大石陽子氏のプロフィール

フェリス女学院短期大学卒。現在は埼玉県の新神泉村の山里で自

然に親しみながら、知り合いの人々にヒーリングを施しながら、日常生活では、テレビ、ラジオ、新聞などは一切視聴せず、自然界からの恩恵に感謝しながら、無農薬の野菜や山野草を使った自然食、健康食、日本の伝統食など研究。人間の命や靈性(エネルギー)を高める為の食生活・子育てに大切な食育活動を通して、日本人の精神性・情緒を大切に生きる生き方を啓蒙しています。

日時 平成28年4月24日(日)

午後1時20分～4時30分

会場 北とびあ9階902会議室

交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 一千元 一般 二千元

学生 一千元

※定員次第で締め切りますので、参加希望者はお早目にお申込み下さい。参加予約は公式サイトのスピリチュアル研究分科会の欄のフォームからお申込み願います。
<http://homepage3.nifty.com/PSIJ/>

創立40周年記念大会 発表者募集

今年には1976年の日本サイ科学会創立から40周年にあたりますので、10月に北とびあにて、「創立40周年記念大会」が開催されます。

前半は会員の研究発表の時間を設け、後半はシンポジウム(テーマは「地球外知的生命・UFOと宇宙人 ―宇宙人サミット―」が予定されており).

会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

会員の研究発表では、テーマは「UFOと宇宙人」に関してでも、そうでなくてもOKであり、これまでの研究での新しい発見、現在もしくは近いうちにデータ取りをしてまとめたこと、偶発現象(UFO、オーブ、心霊現象等)の目撃と原因の推測・解明、様々なサイ現象の仮説(理論)など「サイ」に関連することなら何でも結構です。ご自分の考えや研究成果をまとめて、発表して頂きたいと存じます。

7月末までにタイトルと簡単な内容(200字くらい)をメール、

またはFAX、ハガキでお送りいただき、一応審査させていただいて、通りましたら8月31日までに原稿ファイルをメール添付等で戴きたいと思えます。原稿の書式は後でお知らせ致します。

※創立40周年記念大会での発表はできないが、論文集「サイ科学」の資料として、発表したい原稿も募集致します。

「サイ科学 2015」最終頁の投稿審査規定をよく読んで、応募願います。

「不思議な写真・映像」募集

近年、UFOやオーブなど、不思議な写真が撮られる機会が増えています。が、会員の皆様が偶然撮られた写真や映像の中で、これらの「不思議な写真・映像」がありましたら、是非日本サイ科学会の事務局にお送り願います。

本部例会の終盤や別の機会を設けて、皆様にご紹介していきたいと思えます。

送付の方法は写真ならば、メール添付で左記に送られるか、大量の写真や映像は、USBメモリーに入れて、日本サイ科学会事務局（1頁上段住所）に郵送願います。
office21@psij.mail-box.ne.jp

もちろん、紙焼きの写真送付でも結構です。

ただし、送られた写真や映像は、お返しできませんので、コピーしたものを送ります。

平成26年9月本部例会報告

死後の世界と輪廻転生についての一考察

講師 石川 允朗氏
(獣医師)

死生観について

人間だけでなく、生物は生まれた瞬間から死への時期を探すために動物の死でみると、他の生物のための餌として、戦いによるもの、

傷病によるもの、また人間だけに存在する他の動物には見られない自殺等数多くの死に至る方法があります。



死ぬまでの間、つまり生きていく今日での日本人の平均寿命は、栄養状態、社会衛生環境の向上や、医療技術の進歩などから改善されたためか、男性80・21歳で、女性では世界長寿ナンバーワンの86・61歳と男女合わせて80歳以上の長寿ですが、寿命のくるそれまでは、生きていくために知恵と感情、そして理性の意識体を働かせ、生まれ持った因縁を果たしながら生きていくということになります。

本来人間は150歳とか200歳まで長生きできると言われてい

ますが、此の世でのストレス、病気、事故等により、寿命を縮めてしまうのが現実であります。

ではその寿命を縮めてしまうのはどんなものかということ、ここで挙げてみました。

病気による死因(平成23年厚労省)

- 1位 ガン 40～80歳に多い
- 2位 心疾患 50～80歳に多い
- 3位 脳血管疾患 年齢全体に見られる
- 4位 肺炎 60歳以上に見られる
- 5位 老衰 85歳以上に多い

ストレスを原因とする主な疾病
心身症として胃、十二指腸潰瘍、過敏性大腸炎、自律神経失調症から心臓病と多くの疾病を引き起こす

- ① 配偶者の死
- ② 離婚
- ③ 別居
- ④ 近親者の死
- ⑤ ケガ・病気

これらの死亡原因の誘因となる生活習慣病、糖尿病、高血圧とか肥満などがあげられています。

そこで、この死亡原因となる生活習慣、例えばタバコを止める、過度の飲酒とか運動を調整することで、発症リスクを抑え、つまり寿命を延ばすことが可能ということになります。

新聞の人生相談欄に、健康な者でも、夫婦の相方が亡くなるとか、子供が巣立つ、孫などとの家族との接点も薄くなってくると、「寂しい、人生がつまらない」などの質問がありました。

その答えは、当然ですが、「何かボランティアを始めたらとか、趣味のサークルに入り友人を作れば」と、回答がされていました。

サークルに入ったら入った人間関係でトラブルが起こる可能性もありますし、私は、これは悩んでいる者への正解、指導ではないのではないかと思われまます。

正解とはここで述べるように、「人間は何故生まれ、死んで何処へ行くのか、行くその先の世界は存在するのか、そこに地獄・極楽はあるのか、輪廻転生はあるのか」等を、まだ肉体が元気に活動できる、脳で考える余力のあるうちに学び、次の世界のために準備して

いくことが大切なのであり、趣味のサークルに入ることが残された人生に大切なのではないと思えます。

つまりは、現世的肉体の要求だけを求めるために、この世に生まれてきた目的を、忘失してしまつた結果であると言えるのではないのでしょうか。

老人ホームとか特養施設とか、シェアハウス等の施設に入居して、そこを自分の「終の棲家」にする傾向が高まっているようです。

そして、安住が出来て、ピンピンコロリと死ぬる終の棲家を求める傾向があるようですが、これは今の自分の願望を中心にした考えであり、先祖から流れてくる業カルマ、因縁のことを知らず、未来永劫と続く魂の遍歴を知らぬが故の考えではないかと思われま

死後の世界／黄泉の国と根の国

日本の古代ではどうかと言えば、奈良時代712年に稗田阿礼と太安万侶により筆録された古事記には、イザナミが死んであの世である「黄泉の国」に居るのを、イザナギが連れて帰ろうとしたことが記

されています。

だが、それは穢れたものとして記載されているところをみると、古代の日本人は死ぬことで黄泉の国の世界へ行くが、死は悲しみと穢れ、地獄としてとらえていたのではないかとみられる死後の世界についての記載がされています。

その中で、やはりあの世である「根の国」に居るスサノオノミコトにも記載がされていて、そこではスサノオノミコトは現世と同じように生活をしていて、大国主の別名、大穴牟遲命はその世界を行き来するだけでなく、スサノオノミコトの娘、須勢理毘売を嫁に迎えています。

この記録は、古代における日本人は、人間が死後の世界を行き来することが出来るのを知っていて、あの世の記憶もかなり鮮明に持っていたのではないかと思われま

終活が静かなブームの意味

人生の最後を迎えるための締めくくりとしての活動、いわゆる終活がブームとなつていますが、納棺師のある方は「最初、死とは遠い延長線上にある現象だと思つていたが、今は死とは自然で、極当

たり前の現象であり、納棺の時にその人の生き方が現されている」と話されています。

亡くなれば、肉体も意識も全て亡くなり、無であると基本的に考えていますが、死への恐れ、苦しみが意識としてあり、それは過去に何回も死んで生まれ変わったことを忘れていないから、気持ちの中に出てくるのではないかと思われ

ます。死後は何も無いから、葬儀とかお墓などに埋葬されるとか、されないとかの行為は本来自分が知るよしも無いのですが、自分は死後、どの様に死後祀られるかなどの不安と、毎日お祀りして欲しいとの欲求を持つております。

生きているということについて

仏教の側から見ますと、釈迦が生存し仏教が広まった時代背景を見ますと、インドのみならず世界的に争い、紛争が生じており、農業技術も十分発達していません、大衆の人々の生活は、食べ物、医療、生活環境全般的に、今の時代では想像もつかない程に、困難な時代であり、その生活から救われたいとの願いが強く、多くの宗教

が起こり、結果として、釈迦が唱えた仏教が広まったと思われま

す。釈迦入寂後、700年後にはナールジュナらにより、大乘仏教の思想がまとめられました。それは、人々の苦を救い成仏させるという、大乘の視点からの釈迦の教えである菩提心をすすめるものであり、人々は善行を積むことにより、死後において極楽浄土に行くことが出来るだけでなく、成仏できるとされています。

この教えが、当時の苦しい生活を送る人々の助けの後押しになつたのかと思われま

す。その釈迦は6000回の輪廻転生を繰り返して、その転生ごとに難行苦行を続け、高度の悟りを開き、一切衆生・人々の苦しみを救おうとした教えを学ぶことで、我も仏となれる、つまり成仏できると理解していったと思われま

す。生物学的に、「生きる、生命活動を営む」

人間には60兆の細胞があり、人体の生体の微弱電流による脳からの指令のもと、それらが互いに連携をとりながら活動していくことにより、生きているということに

なります。

だがそこで、その幾つかの細胞間とのコントロールが利かなくなり、病気、ガンなどの発生を導き、最悪の場合は細胞死、即ち死亡することとなります。

そのコントロールは、骨格から始まり、筋肉組織、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、そして感覚器系と多くの組織までに伝達されるようになっていきます。

その中で、重要な働きの部分は交感神経、副交感神経であり、リラックスすることで、副交感神経が優位となって、全身の細胞へ安定した活動を与えます。

長寿者のミトコンドリア遺伝子

人間の体の60兆の各細胞には、ミトコンドリアが存在しています。その大きさは、0・5ミクロンの長さで、全ての好氣的真核生物の細胞に含まれ、人や動物の細胞内でエネルギーを作りだしている細胞内小器官で、1個の細胞内に数百個から数千個もあります。

つまり人体には、60兆個の細胞があるので、数百兆から数千兆個のミトコンドリアが存在すること

になります。

このミトコンドリアの主要な機能は、電子伝達系による酸化的リソ酸塩化によるATP（アデノシン三リン酸・人体のエネルギー源となる物質）の産生です。

細胞の活動に必要なエネルギーのほとんどは、直接、あるいは間接的にミトコンドリアからATPの形で供給されます。

それ以外にも多くの機能を持っており、ステロイドやヘムの合成などを含む様々な代謝、カルシウムや鉄の細胞内濃度の調節、細胞周期や細胞死であるアポトーシスの調節などにも大きく関わっているとされています。

東大医学部の門脇孝氏が述べておりますが、長寿者のミトコンドリア遺伝子と、一般患者との全塩基配列を調査したところ、5ヶ所の違いがあり、なかでもミトコンドリアDNAの5178番目の塩基（シトシン・C）が、アデニン（A）に置き換わっている多型（Mt5178C↓A）が多く百寿者に見つかっています。

日本人のMt5178A型の頻度は40%だが、百寿者は（37r例）の62%がMt5178A型

を持っていました。

このことから、Mt5178A型を持つている人は、Mt5178C型を持つている人と比べて、成人発症性疾患に罹りにくいのです。

健康ということを考えてみますと、人間の身体の数兆個のミトコンドリアに、副交感神経を優位とした安定した活動を与える脳からの命令（好ましい想念）を送る場合と、好ましくないマイナスイメージを送る場合を比べますと、長期間ではミトコンドリアの働きが大きく異なってくるのではないかと考えられます。

ですから、妙に疲れっぽい慢性疲労症候群や理由の分からない病気になっていくのも、やはりプラスに考えるか、マイナスに考えるかによって、人生が変わってくると思います。

高齢者が、眠っているエドガー・ケイシーに「年取っても元気になる方法」を聞きましたら、「気持ちの持ちようで元気になる」と答えたそうです。

ミトコンドリアにプラスの想念を送ると、体温が36・5度をキープして元気になりますし、元気が

ないと体温は36度となって、冷感性となり、疲れっぽくなります。

肉体が健康になりますと、幽体（オーラ）へも良い影響を与えますし、くよくよした想いで生活したり病気になるますと、幽体は色も悪くなったり傷を付けることにもなります。

心霊的にこの世で生きる

・胎児が母体に宿り、妊娠をして3ヶ月を経ると、その胎児を守護する霊が広い意味での先祖霊である類魂で定められて、胎児は一つの魂として母親の胎内に宿る。

・出産して大きく成長するに従い、その守護の霊は、その者を守るだけでなく、守護の霊も共に学び成長していく。

・守護する守護霊とは、亡くなった400〜500年ほど経た先祖の中から自分に付く方であり、男性には男性の守護霊、女性には女性の守護霊が付くとされている。男性に女性の守護霊、女性に男性の守護霊が付くこともあります。多くは同性の守護霊となるようです。

・その者が成長するには、守護霊を含めた先祖からの生命エネルギー

ーが流れることが必要であり、もし流れてこなければ、その時点でその肉体は死を迎えることになる。・人間の肉体は、肉体と霊魂、そしていま述べた先祖からの生命の流れがあるが、これらの一つが欠けても生命維持はできない。

本能と欲望からの因縁／死生観の意義と疑問

動物には3大本能として、「食べること・睡眠をとること・子孫を繁殖させること」があるとされていて、人間以外の動物では必要以上の要求はせず、本能に従い生命活動をしていますが、人間の場合では、これらへの願望がより強く欲望とまでなり、それは食欲、睡眠欲、性欲となつて、際限なく求められています。

人間は際限なく本能からの欲望を満たしてきた歴史があります。そして、これらの欲望が結果として争い、恨み、つらみを生じ、前世からの多くの因縁の上に、さらに新しく因縁を生じることになっていきます。

その結果、生命の長短、死後の世界への居場所、そして来世での生まれ変わる環境に大きく影響し

ていくこととなります。

現在の死生観とは何かということになるのですが、死を通して生きていく今の自分が、どのような環境下で生活しているのか、どの様いの中で生活を送ればいいのかということを見つめることであり、それは次のように分けられます。

- ①生きていくこととその意義
- ②死ぬことについての意義
- ③死は無なのかそれとも死後の世界はあるのか
- ④生まれ変わりである輪廻転生はあるのか

人間はこれら項目について理解することで、現在の人生観は変わっていくと思われずし、それにより自分が来世で置かれる環境を考えるから、今の日常生活の在り方が大きく異なつて来るのではないだろうかと思われます。

よく私は前世や来世のことを聞かれるのですが、そのとき答えるのパターンは決まっています。前世のことを聞かれたら、「今あなたは幸せですか？ 苦しいですか？ 病気ですか？ ・ ・ ・」という事を聞いて、前世はこうでしたよね、と答えま

す。来世のことを聞かれたら、「今幸せですか？ 苦しいですか？ 楽しいですか？ どういうふうにしたいのですか？」と聞いて、「来世もそうなるでしょう」と答えております。ですから、前世も来世も今の自分が決めていくこととなります。

死生観の意義と疑問

死とは、帰幽であり、この世からあの世の幽界へ移ると言うことであつて、それは肉体を道具として使い、この世での修行生活を終えた者が、本来の居場所である幽界に帰る事なのだと言えます。

死に近くなる時に寂寥感、死への恐怖、現世への執着が生じるのは、やはり死を理解していないことと、転生についても理解を示さないからに他ならないのです。

心霊的にみる死については、死の宣告を受けた場合、幽体が肉体の頭蓋骨部から別離していくこととなり、その姿はその者と同じ人間の形をした透明の体となつていきます。

そして、その幽体と肉体とを繋ぐ、銀色の紐を魂の緒、又はシルバークードともいわれるものが、肉体と幽体が離れる状態、つまり

幽体離脱をしても肉体が生きていくのであれば、この距離がどんなに離れていても切れることはありませんが、死の場合は幽体が肉体から離れると、間もなく切れてしまうとのこととです。

この魂の緒が切れた時点が、肉体上の本当の死となり、霊魂はあの世である幽界へ守護の霊に導かれて行くこととなります。その霊魂は、この世の側にあり、我々とともに存在しているのかもしれないので、死は死ではなく、新しい生活へのスタートであると言えますが、今日の科学において見えな世界への道はほど遠いのです。

※後半は臨死体験の実例と検証、輪廻転生(実例・ダライ・ラマ14世、勝五郎)、エドガー・ケイシーのリーディング内容の紹介、死後の世界の紹介、動物の霊性等についてのお話がありました。

※御講演のすべてを記録したビデオ映像(USBメモリ)がありますので、興味ある方はメールかFAXで御注文願います。(送料を含めて3500円です。)



平成28年2月本部例会報告

仏教の靈魂観

講師 正木 晃氏

(当日配付資料より)

「四十九日」の話

なぜ四十九日？

四十九日は、人が亡くなったあと、通夜と葬儀にはじまる一連の法事のなかでも、節目の行事として、とても重要です。しかし、なぜ四十九日なのか、と訊かれて、すぐ答えられるお坊さんは少ないようです。

この問いにたいする解答は、四世紀ころにインドで書かれた『俱舍論』という仏教哲学の書物などにあります。それによれば、死から生に移行する期間が四十九日間なので、四十九日という数字が出てきたのです。

もう少しくわしく説明しましょう。

まず、前提として、輪廻転生があります。これは、人間をふくむありとあらゆる動物は、生と死を永遠に繰り返すという考え方です。

つまり、死んだとおもっても、ほんとは死んではいません。すぐまた別の生命体に生まれ変わっているというのです。

いいかえると、生まれ変わり死に変わりして、永遠に死ねないのです。

こういう状態を、良いとみなすか、悪いとみなすか。なかには、さまざまな生のあり方を体験できるのだから、おおいにけっこうとおもう方がいるかもしれません。意見はいろいろあるでしょう。しかし、ブッダはもとより、インドの宗教者たちは「苦」とみなしました。



考えてもみてください。悲運や苦勞に満ちた人生を送ってきた人が、臨終の床で「ああ、これで、

わたしの苦しみも終わる」とおもっていたら、あにはからんや。また別のなかに生まれ変わって、前にも増して苦しまないともかぎりません。死は救いにはなりえないのです。

輪廻転生は、現世のおこないによって、次に何に生まれ変わるか、決まるとされます。したがって、十分に功德を積みなかつた人は、人間以下の生命体にしか生まれ変われないこととなります。気がついて、ゴキブリホイホイのなかでジタバタしている可能性だって、十分にあります。だから、この輪廻転生から抜け出すところこそ、解脱であり、最高の救いだと考えたのです。

中有

さきほどあげた『俱舍論』には、生命体を構成している五蘊、つまり色と受と想と行と識という基本要素は、次の四つの時間帯で展開すると書かれています。生有・本有・死有・中有です。中有は中陰ともいいます。

このうち、生有は、わたしたちが生まれる瞬間です。本有は、わ

たしたちが現に生きている時間帯です。死有は、死ぬ瞬間です。中有は、死から生へと移行する時間帯です。

じつはこの中有の時間帯が、最長で四十九日間なのです。厳密にいうと、生きているときに善行をかさねた人は、死後、すぐになかに生まれ変わります。生きているときに最悪の行為をかさねた人でも、四十九日後には、なかに生まれ変わります。ほとんどの人は、そのあいだのどこかの時点で、なかに生まれ変わります。

こういう考え方は、仏教が独自に生み出したわけではなく、仏教が誕生する以前からあったようです。たとえば、バラモン教の聖典『ウパニシャッド』には、人が死ぬと、肉↓皮↓血↓骨という順番で身体がととのえられ、一〇日後に新たな生命体として再生すると書かれています。しかも、この一〇日間に、死者の靈魂をご先祖様の位に到達させるために、ピンダとよばれる特別な儀式をおこなっていました。これが仏教にとりこまれて、四十九日という法事になったと推測されています。

ところ変わって、仏教がひろま

る前の日本では、人が死ぬと、タマフリやタマヨビとよばれる儀式がおこなわれていました。タマフリは生命力を強化する儀式、タマヨビは死者の靈魂をよびもどす儀式です。目的はともに、死者を現世につれもどすことでした。

とはいっても、死んでしまった人をよみがえらせることは、現実にはほとんど不可能だったことでしょう。しかし、ともかくもこういう行為を一定の期間にわたっておこなうことで、のこされた人々が「なすべきことはなした。これでもう十分だ」という、安心感を得られたことはたしかです。

さらに、こういう行為をきちんといととなまないと、死者の靈魂が崇ると信じられていたこともたしかです。その恐怖は、現代人には想像もつかないくらい、強いものでした。だから、一生懸命に儀式をいとなみ、死者の靈魂に安定してもらうことが、なにより大切だったのです。そして、死者の靈魂が安定すれば、やがてご先祖様の仲間入りして、今度はのこされた親族をあたたく見守ってくれる存在に転化すると考えていたのです。

この仏教以前からあった儀式が、仏教とむすびついたとき、四十九日の法事になったというのが、学術上の通説です。

再生のメカニズム

中有の本体は、『俱舍論』によれば、煩惱にまみれた五蘊だそうです。ただし、物質的な身体はもっていません。したがって、人の目には見えません。

おもしろいのは、中有にも食料が必要とされていることです。その食料とは香です。そのため、別名をガンダルヴァ、つまり「食香」とか「尋香」ともいいます。ガンダルヴァを漢字で表記すると、乾闥婆になります。

もつとおもしろいのは、ガンダルヴァが再生するプロセスです。ガンダルヴァは空中を自在に飛び回っています。しかも、どんな物質でもとおりにぬけることができます。

ところが、このガンダルヴァにも自由にならないことがあります。前世の因縁からあらかじめ定められている未来の男女がセックスしているところに行き会々と、気を失って、母となる女性の子宮に吸

着されてしまうのです。おまけに、女性の子宮だけはとおりにぬけられないのです。かくして受胎し、再生するのです。

このとき、もしもそのガンダルヴァが、父となる男性を愛欲し、母となる女性に嫉妬するならば、生まれてきた子は女の子になります。反対に、母となる女性を愛欲し、父となる男性に嫉妬するならば、生まれてきた子は男の子になります。

この話のもとから仏教にあったのではなく、インド神話からとりこまれたようです。ガンダルヴァは、もとはといえば、中有とはなんの関係もありませんでした。それどころか、たいそう色好みの神様でした。とりわけ、新婚の夫婦がベッドインしているのを覗き見するのが大好きな、困った神様でした。それがいつしか仏教にとりこまれ、中有になってしまったらしいのです。なんだかなあ、という感じがしますが、歴史的な事実です。

恐怖の体験

では、生から再生にいたる最長で四十九日間に、中有はどんな体験をするのか。この件にかんして

は、日本仏教はあまり興味がなかったようです。しかし、チベット仏教はひじょうに強い関心をしました。いわゆる『チベット死者の書』に、じつにくわしく書かれています。

『チベット死者の書』という名称は、外国人が勝手につけたもので、正しくは『バルド・トゥードル』といます。直訳すると、「中有救度法」です。つまり、「中有を救済して、悟りにみちびく法」です。

ほんとうは死の瞬間に悟りにいたるチャンスがあるのですが、大概の人はそれをとらえられません。そこで中有の状態で悟りにいたる方法がとられることになりました。

そもそもインド仏教でも、中有の体験は恐怖に満ちているとされてきました。『チベット死者の書』でも、それは変わりません。

もつとも、中有は最初から、恐ろしい存在に出会うわけではありません。むしろ逆に、最初の一週間は、心優しい仏菩薩がなんとか中有を救ってあげようと出現するのです。ところが、生前に犯した悪業のせいで、仏菩薩が中有にはきわめて恐ろしいものにか感じ

られません。その結果、せっかく仏菩薩が救ってあげようとして、救われるチャンスを見すみす逃してしまうというわけです。おまけに後になればなるほど、見た目も性格も怖い神々が出現してくるので、ますます恐怖を感じるようになります。かくして、救われるチャンスは遠のくばかりです。

かつてお会いしたチベット仏教の高僧はわたしに「生きているうちに救われなかつた者が、死んだからといって、簡単に救われると思うかね？」とおっしゃいました。「人は死んでしまえば、みな仏」という日本仏教とちがって、チベット仏教にはとても厳しいところがあります。

「幽霊」の話

幽霊に足がない理由

幽霊にまつわる話はタネが尽きません。とりわけ、東日本大震災以降、被災地では幽霊がしきりとあらわれていると聞きます。

幽霊というと、足がないというのが通説です。そして、江戸時代中期に活躍した画家の円山応挙（二七三三〜九五）が、足のない幽

霊の絵を描いたのがきっかけで、幽霊には足がないという説がひろまったといわれています。

一説には、円山応挙より前に、朝廷の御用絵師をつとめる土佐派をひきいていた土佐光起（二六一七〜九二）が、すでに足のない幽霊の絵を描いていたともいいます。いずれにせよ、江戸時代になって初めて、幽霊には足がないという、いわば約束事が成立したという点と同じです。

ところが、この話はかなりあやしいとおもわれます。なぜなら、幽霊はもとから足がないと信じられていた可能性があるからです。

古代の中国では、幽霊に「鬼」という字をあてていました。日本では「鬼」というと、頭に角を生やし、口には鋭い牙、上半身は裸で、虎皮のパンツをはき、金棒を手にする怖い存在を想像しがちです。

しかし、こういうタイプの「鬼」は、おおむね仏教の影響を受けて成立したものです。いいかえると、仏教が日本に伝来するまでは、こういうタイプの「鬼」はいませんでした。

ちなみに、「鬼」と書いて「おに」と読む理由は、「いない」を意味す

る古典語の「おぬ」にゆらいしています。つまり、目には見えないけれど、とても恐ろしい存在という意味だったのです。

また、奈良時代に編纂された万葉集では、「鬼」という字を「もの」と読ませています。この場合の「もの」は「もののけ（物の怪）」の「もの」で、目には見えない、あるいは言葉では表現できない恐ろしい存在を意味しています。意味的には、「おに」とよく似ています。

では、漢字の「鬼」は、もともとどういう意味だったのでしょうか。答えは「幽霊」です。このことは、「鬼」という漢字を分解してみると、よくわかります。

まず、「田」は、頭蓋骨を真上から見たところ。「ル」は足です。「ム」は、はっきりしないことを意味する記号です。ですから、全体では、足もとが定かではない頭蓋骨を意味しています。じつは、この姿こそ、古代中国人が想像していた幽霊なのです。

つまり、「鬼」すなわち幽霊は、最初から足もとが定かではなかったのです。したがって、もし仮に円山応挙や土佐光起に、日本の幽霊には足がないというイメージを

定着させた功績があるとすれば、たんなる知識ではなく、誰にもわかりやすく、目に見えるかたちで表現した点に求めるべきでしょう。

幽霊の正体

さて、足があるとかないとかよりも、はるかに重要なのは幽霊の正体です。一般には、成仏できなかった死者の霊魂とされています。ただし、成仏できなかった死者の霊魂といわれても、あまりにも抽象的です。少なくとも、仏教の教義ではどうみなされてきたのか、それを確認する必要くらいはあります。

このことに答えてくれる書物があります。臨済宗の高僧、沢庵禪師が晩年に書いた『玲瓏集』です。沢庵禪師といえは、江戸幕府の第三代将軍、徳川家光やその側近だった柳生宗矩の師として有名です。その沢庵禪師にいわせると、幽霊の正体は中有です。それもただの中有ではなく、「罪障ふかき中有」だそうです。『玲瓏集』には、こう書かれています。

うすくして、さだかに見えざる形なれば、中有をば人は見ず。か

れはいつもいきで居たる時のごとく、人を見れども、人是を知らず。罪障ふかき中有は、形あらはるるなり。人自然にこれを見て、幽霊などといふ。又なき事にあらず。

(存在の程度が薄く、はつきりと見えない形なので、中有を人々が見ることができません。しかし、中有のほうは、自分が死んでしまったとは思っていないので、生きていたときと同じように、人々を見ています。ところが、罪障の深い中有は、形があらわれます。人々はあるのままにこれを見て、幽霊が出たなどと言うのです。そういうこともなきにしもあらず、です。)

中有について、沢庵禅師はこういう趣旨のことも書いています。「中有は五根(眼・耳・鼻・舌・身体)をもたないが、感覚は残っていて、その点では生きている人間となんら変わらない。外から見えないだけで、中有本人からすれば、生きているのと変わらない。形も全くないわけではないが、あまりにかすかなので、見えにくい。」

そして、この文言のあとに、さき

ほど引用した「うすくして・・・」以下の文章が来ます。

自分の死を納得できないと幽霊にこの文章で問題になるのは「罪障ふかき」という表現です。そのまま現代語訳してしまうと、「悟りや解脱をさまざまげ(罪)の行為が多い状態」になってしまいます。しかし、沢庵禅師がそういう意味で、「罪障ふかき」とは言っていないようなのです。それは、そのあとに書かれた以下の文章から推測できます。

執心ふかければ、形あつし。たとへば葉など、よろづの物をせんじ出せる汁のごとし。あさきものは、その汁あさし。あつきものは、その汁こくして、物の汁と、さだかに知る。・・・中有と執心ふかければ、形をあらはす。

(執心が深ければ、形も濃くなります。たとえば、葉などをはじめ、いろいろなものを煎じ出した液体のようなものです。薄いものは、その液体も薄いのです。濃いものは、その液体も濃いので、それが何の液体なのか、はつきりと知ることができません。・・・中

の場合も、執心が深ければ、形があらわれるのです。)

つまり、沢庵禅師は「罪障」と「執心」を同じ意味で使っています。だから、「罪障ふかき中有」はすなわち「執心ふかい」中有であり、その姿が見えることがありと述べているのです。

では、執心とはなにか、それがつぎの問題です。

執心とは、ある対象に執着する心を意味します。とすれば、今度はある対象とは何か、が問題です。おそらく、ある対象とは「生命」でしょう。その証拠に、『玲瓏集』の冒頭にはこう書かれています。

命ほど尤可惜物はなし。高も賤も、各命長からざれば、本意を遂ることなし。千々の財宝をすて、も、命はかふべき物なり。

(生命ほど、大切なものはありません。自分の高い者も賤しい者も、長生きしなければ、したいことはできません。ですから、巨万の富をなげうつても、生命は買わなくてはなりません。)

そして、「生命」に執着する心と

なれば、「生きたい、生きていたい」と熾烈にねがう心のことです。いかえれば、「死んでも死にきれない」という心のことです。ようするに、自分の死に納得していない死者の霊魂です。それが幽霊の本体なのです。

東日本大震災では、なんにも悪いことをしていないのに、死ななければならなかった人々がたくさんいました。非業の死を遂げた人々が、たくさんいました。そういう人々の中有が、いま幽霊とあらわれているということです。

ブツダと「たましい」
ゆらぐ学説

「ブツダは霊魂の存在を否定した」。大学の仏教学部ではたいてい、そう教えています。仏教の概説書にも、大概はそう書いてあります。つまり、「ブツダは霊魂の存在を否定した」という認識は、近代仏教の金科玉条なのです。

しかし、最近、この金科玉条に疑問がもたれています。最新の研究成果によると、インド仏教では、ブツダ以来、一三世紀の初めに滅亡するまでの長きにわたり、霊魂

実在論と靈魂非実在論の両方がありました。そして、両者のあいだでかんかんがくがくの論争がつづき、結局のところ、最終的な結論を見出せずに終わったということです。（桂紹隆「インド仏教思想史における大乘仏教―無と有との対話」春秋社『大乘仏教とは何か』）。

「ブッダは靈魂の實在を否定した」という金科玉条の根拠とされたのは、いわゆる無我説や非我説です。無我説と非我説は、厳密にいうと、異なりますが、永遠不滅の實體としての「我（アートマン）」は實在していないという点では共通しています。

最近、問題にされているのは、無我説や非我説が、本来、なにを意味していたのか、です。じつは、無我説にしろ非我説にしろ、自分の身体の特定の部位には「我」とよべるなにかはない、もしくは外界のどこにも「我」とよべるなにかはないという意味で、それ以上の意味はなかったのです。ところが、のちに拡大解釈されて、永遠不滅の實體としての「我」は實在していないという意味になってしまったようなのです。

ブッダも来世を認めていた
インド生まれの宗教では、動物

のカテゴリーに入る生命体は、悟りを開かないかぎり、永遠に生まれ変わり死に変わり死に変わりするというのが、絶対の前提でした。これが輪廻転生です。

ブッダが在世していた時代には、すでに輪廻転生が前提になっていました。しかし、現存する初期仏教の文献には、ブッダが直接、輪廻転生に言及した箇所はありません。ただし、原始仏典のなかでも最古層とされる『法句經(ダンマパダ)』の第一章には、こう書かれています。

悪いことをなす者は、この世で悔いに悩み、来世でも悔いに悩み、ふたつのところで悔いに悩む。「わたくしは悪いことをしました」といつて悔いに悩み、苦難のところ(＝地獄など)におもむいて(罪のむくいを受けて)さらに悩む。

善いことをなす者は、この世で歡喜し、来世でも歡喜し、ふたつのところで歡喜する。「わたくしは善いことをしました」といつて歡喜し、幸あるところ(＝天の世界)におもむいて、さらに喜ぶ。(中村元

『真理のことは・感興のことは』岩波文庫)。

つまり、来世があることや、その来世にも「地獄」や「天の世界」があると、ブッダ自身が述べているのです。ですから、輪廻転生といわれないまでも、生まれ変わり死に変わり死に変わり死に変わり死にわ

なり。インド仏教界の半分は靈魂實在論
いつたいなにが生まれ変わり死
に変わり死に変わり死にわ
に対する答えは、いろいろ考えられ
ました。

問題になります。ブッダ自身は、あれ変わり死に変わり死にわ
この種の問題を論じていると、あ
あでもない、こうでもないという
觀念論に陥ってしまうので、しな
いようにと釘を刺しています。そ
んな暇があったら、ひたすら修行
に励め、というわけです。

有力な説の一つに、「ブドガラ」
があります。仏典の日本語訳では
ふつう「ひと」と翻訳されています
が、これでは抽象的すぎて、意味
がまったくいつていいほど、わ
かりません。もう少し正確に訳せ
ば、「記憶の担い手」というくらい
の意味になります。五蘊(色・受・
想・行・識)とは同じとも異なる
とも言えない「不可説な存在」、す
なわち解きあかし得ないなにかで
す。

しかし、インドの宗教界という
ところはとても厄介で、自分たち
の宗教を、ほかの宗教を信仰する
人々にむかって、筋道立てて説明
できないと、批判や攻撃をまぬか
れず、ついには存続できない仕組
みになっていました。ブッダ以降

「我(アートマン)」と比較する
と、「ブドガラ」は生まれて死ぬま
でのあいだにいろいろと変化する
点で、いつさい変化しないとされ
るアートマンと異なります。しか
し、そのほかの点ではほとんど違
いがありません。

の仏教も、この仕組みから逃れら
れませんでした。結局はそのなか
に巻き込まれ、ああでもない、こ
うでもないを延々と繰り返すこと

このブドガラこそ輪廻転生の本
体とみなす説は、おもに主流派仏
教(小乗仏教)で主張されていま
した。その学派を正量部といい、

そこに属する僧侶の数は、七世紀にインド留学を実現した玄奘三蔵の『大唐西域記』によれば、ひじょうに多く、主流派仏教のほぼ半数を占めていたと伝えられます。

大乘仏教の学派でも、輪廻転生の本体を「如来蔵」や「仏性」や「アラヤ識」というかたちで、「実在するなにか」として認める勢力は、ひじょうに大きかったことがわかってきます。無我説を主張する中観派に対抗して、インド仏教界を二分していた唯識派が、その典型例です。

さきほどふれた桂紹隆先生の論文によると、玄奘三蔵が留学していたころのインド仏教界は、出家僧の数でいうと、大乘仏教が半数くらいでいちばん大きく、ついで正量部が四分の一、その他の主流派仏教が四分の一という構成だったといえます。そして、大乘と主流派を問わず、輪廻転生の本体として、プドガラや「実在する何か」を認める勢力を合計すると、インド仏教の出家僧のうち、なんと半数くらいは輪廻転生の本体が実在すると考えていたようです。

ブッダも「たましい」を認めてい

た？

そもそも、輪廻転生の本体を「実在するなにか」に求める傾向は、初期仏教の段階からあった事実がわかっています。具体的な例をあげてみましょう。

一つは原始仏典の一つ、「相应部(サンユッタ・ニカーヤ)」の第一集第四篇第三章第三節におさめられている「ゴデーイカ」という物語です。この部分は、岩波文庫から『悪魔との対話』(一九八六)というタイトルで出版されていますので、ぜひお読みいただきたいとおもいます。

それはこういう話です。ブッダの弟子だったゴデーイカは、修行を積んで、心の解脱に達しました。ところが、この境地をたもつことができせん。六回も心の解脱に達したものの、そのたびにその境地から退いてしまいました。そこで七回目の心の解脱に達したときに、ゴデーイカは刀を手にとって自殺してしまいました。ゴデーイカが自殺したことを知ったブッダは、弟子たちを引きつけて、ゴデーイカの遺体を見舞いに出かけたのです。遺体が安置されている場所に来てみると、遺体

のまわりを、「朦朧としたもの」が右往左往しています。それを指して、ブッダはあれは悪魔、悪しき者だといひ、「ゴデーイカの識別力を探し求めているのだ。しかし、ゴデーイカは涅槃に入ったので、もはや識別力はない。それで、悪魔はゴデーイカの識を見つけられず、右往左往しているのだ」と見抜きます。ここでいう「識別力」は、パリー語のヴィンニヤーナの訳語です。

よく似た話は、同じく「相应部」の第三集第一篇第二章第四章第五節におさめられている「ヴァツカリ」の物語にも見られます。こちらは『原始仏典Ⅱ 相应部経典』(春秋社)第三卷(二〇二二)におさめられています。

ブッダの弟子だったヴァツカリという人物が、悟りを開いたのち、病苦から離脱するために、刀を手にとって自殺します。ブッダは、ゴデーイカのとくと同じように、ヴァツカリの遺体を、弟子たちを引きつけて見舞いに出かけます。すると、暗闇のようなものが、遺体のまわりを右往左往しています。それを指して、ブッダはあれは魔であり、「ヴァツカリの識を探

し求めているのだ。しかし、ヴァツカリは悟りを開いて涅槃に入ったので、もはや識はない」と語りまします。ようするに、話の筋はゴデーイカのとくと同じです。

問題は、原語では「ヴィンニヤーナ」、訳語では「識別力」あるいは「識」とされている言葉です。春秋社から出版されている本についている巻末の注を見ると、そこには、「認識体、意識体、たましいのこと」と書かれています。ようするに、「ヴィンニヤーナ」とは「たましい」なのです。

ということとは、初期仏教の段階から、「たましい」の存在をみとめていた可能性があるということになります。ブッダはどうだったか、その答えは現時点では確答できません。しかし、ブッダが「たましい」の存在を完全に否定していたとはいき切れない可能性が出てきたことは事実です。

以上の発見は、これまでの仏教学の常識をくつがえすものです。日本仏教は伝統的に、霊魂実在論の立場をとってきました。この立場は、明治以降の近代仏教学から、ほんとうの仏教ではないと批判されがちでしたが、インド仏教の実

情を知れば、日本仏教の伝統は必ずしもまちがっているとはいえないのです。



第四〇一回関西日本サイ 科学会研究集会報告

物質化現象 無から有は生じる

講師 スワミ氏

とき 平成27年9月19日
ところ 大阪科学技術センター

スワミ氏のプロフィール

広島県立呉三津田高校出身。筑波大学第一学群自然学類卒業。

幼少期より理解困難現象の体験が多かったため、それらの現象の物理学的解明を行うことを目的に、物理学者となることを目指す。十数年にわたりインドの聖者の弟子となり物質化現象の修行に明け暮れた。

2000年に全ての修行を納め日本に戻り、物質化の解明はもとより、自らも物質化を行う。その

後、さらなる真理を求めフィリピンに渡り、心霊治療の能力を獲得し、ヒーラーとなり、3年前より、タイにて、神聖秘法術科学学校を開催。

(講演要旨)

宇宙出現のビッグバンと同様の現象を、タイの洞窟の中で100%に近い再現性をもって、再現可能である。そこでは、激しい火花が爆発音を伴って発生し、それに伴い、様々な物質が出現する。金属状の物、鉱物状の物、等が多数出現し降ってくる。多くの場合、それらの物質は、融解後急速に冷えて固まった形状を示し、出現直後は高温である場合が多々見られる。

その為、それらの出現物を受け止める回収用の天幕状の布が、焼けて小さな穴が空く場合もある。これらの出現物は一度に数十個以上、まさに雨のように降ってくる場合が多い。

この現象は、無から有が生じる物質化現象であり、まさに超小型のビッグバンである。

また、細長い金属質の棒状物が洞窟の天井より出現し、あたかも

蛇のようにクネクネと動き回る。直径は5センチ程度の場合が多いが、長さは数十メートルに及ぶ場合もある。

先端部は動き回り、参加者の方へ近づく場合もある。もう一方の先端部は、天井の中にあるため確認できない。このような意思を持った生命体のような動きをする金属質の棒状物質が数本出現する場合もある。

この現象の紹介と、この現象発生のメカニズムの説明、また、出現した物質の公開、これらの現象を撮影したビデオも公開された。

この詳細論文はネット

<http://www.amanotobira.com/>で公開されています。また、「サイジャーナル」(平成28年1・2月号)「平成27年2月本部例会報告」(P. 5〜10)も合わせてご参照願います。

☆ ☆

当日の参加者は会員20名、非会員29名、関係者1名、計50名でした。講演記録テープは当面制作できなくなりました。

(関西日本サイ科学会会長

河野明夫)

第四〇三回関西日本サイ 科学会研究集会報告

フルーツ2200日物語

講師 中野 瑞樹氏

とき 平成27年11月21日
ところ 大阪科学技術センター

中野瑞樹氏のプロフィール

1976年和歌山県出身、大阪府在住。京都大学大学院農学研究科卒業(農学修士)。元アメリカ海洋大気局研究員。元東京大学工学部教員。現在は国際フルーツ協会代表・体を張るフルーツ研究者として活躍、TV出演や講演多数。

2009年9月28日より、フルーツを中心に果実だけの食生活実験を続けている。この間、ご飯一粒もパン一かけらも、肉も魚も、根・茎・葉野菜も全く食べてはお

らず、水もお茶もお酒も一滴も飲んでいない。食しているのは、フルーツ、果実野菜（トマト、キュウリ、ナス、ゴーヤ、オクラ、トウガラシなど）、果物（アボカド、レモン、梅（塩漬けの梅干しのみ）、クリ（焼き栗））と、塩（果実野菜やスイカやメロンの外皮をぬか漬にしている）と果実調味料（胡椒、一味など）・果実油（グレープシード油、オリブ油など）だけである（穀断ち、肉断ち、水断ち、酒断ち）。

以前は、果実油と塩などで果実野菜を炒めたりしていたが、2011年3月27日からは加熱調理も食していない（火の物断ち）。

私は決して果実だけの食生活を広めたいわけではない。体ができていない人がいきなり始めても、栄養不足でふらふらになり倒れるので、まねをするのはやめてもらいたい。しかし、各公的機関が勧めるように、健康増進のために、毎日食してもらいたいと考えている。

毎年、日本の国土の14%の面積（※1）、つまり九州と沖縄と四国を合わせたよりも広い面積が沙漠になっている。もともと環境問題

に関心があり、学生時代は沙漠問題の研究に関わり、沙漠化、森林伐採、地球温暖化など地球レベルの環境問題の解決のためには、いかに木を増やすかが鍵だと考えていた。東京大学教授（経営工学系）時代の2003年、木を増やすには、フルーツを食べることだと直感する。なぜなら、各公的機関が勧めるように、健康や美容目的のために、フルーツを食べれば、生産者を通じて、木を増やすことができるからである。以降、フルーツについて独学で学び、2004年10月から始めた、フルーツセミナーや講演は250回以上になる。

熟した甘い果実は、唯一の共存関係にある食物である。

植物は動物とは異なり、その場から動けない。種が近くだけで発芽し続けた場合、病気などで全滅する恐れがある。そこで多くの被子植物（花を咲かせる植物）では、鳥や獣などに、食べてもらい、糞として遠くにはばらまいてもらおうという戦略を取っている。

動物で言えば、子にあたる種が未熟な間は、外皮や果肉を固くしたり、苦くしたり、葉と同じ緑に

して目立たなくしたりと、動物に食べられないように工夫している。種が成熟すると、目立たせるために、色鮮やかにしたり、香りを漂わせたり、消化が良いように柔らかくしたり、果実を食べてもらおうと工夫を重ねる。例えば、小学生に不人気なゴーヤも、熟すと外皮が黄色くなるし、中には真っ赤な甘い果肉ができる。またピーマンも熟すと赤くなり、甘酸っぱくなる。つまり、熟した果実は、「食べて、食べて、どんどん食べて！」と植物が言っているといっても過言ではない。

しかし、熟した果実以外の食べ物、そうではない。葉や根は目立たなくしたり、苦くしたりするし、種である穀物は生では消化が悪い。また肉や魚にしても、動物は食べられないように逃げ回るわけである。

しかも、撒かれた種が発芽し、成長し、花が咲くと、ミツバチやチョウなど多くの昆虫の餌になる。昆虫が増え、鳥や小動物が増える。小動物が増え、タカやフクロウなどの猛禽類が増え、生態性が豊かになっていく。

一方、日本の中山間地域では、

イノシシ・シカ・サル・カラスなどの被害が、年間200億円以上に及ぶ（※2）。野生動物が人里に下りてくる原因のひとつは、戦後の拡大造林政策によって、栄養価の高い、ドングリやヤマモモやカキといった実のなる広葉樹をほとんど切り倒して、あまり動物たちの餌にならない、スギやヒノキやマツを植えたからである。要は奥山にご飯がないから、人里に下りて来てしまう。日本の国土の67%は森林だが、そのうちの41%がスギやヒノキやマツなどの人工林であり、それは国土の27・2%になる（※3）。うち約半分は戦後の拡大造林政策によって植えられたものとされている。遠目には緑でも、針葉樹の密集林である人工林は、中は薄暗くて下草も少ないため、生物多様性が乏しく、緑の沙漠と呼ばれる。結果として、日本人の29・8%が花粉症となっている（※4）。なぜなら、花粉症の主要原因が、スギ・ヒノキ花粉の増加にあるからである。

現在、世界の9人に1人が飢餓状態にある（※5）。特に、発展途上国において、5歳になる前に命を落

とす子どもの数は、年間660万人にも及ぶ(※6)。WFP(国連飢餓報告)によれば、世界で20億人がビタミン・ミネラル不足に陥っており、結果として脳機能障害や臓器障害の原因となっている(※7)。

一方で、フルーツはビタミン・ミネラルが豊富で、しかも消化吸収の良い食べ物です。その土地に合っていれば、数ヶ月から数年後には果実ができる。

世界では、8人に1人が不衛生な水を飲んでいる(※8)。下痢は、周産期(出産前後の期間のこと)を除けば、5歳未満の子どもにとって肺炎に次ぐ死亡原因です。2012年には約58万人(1日当たり1600人)の5歳未満の子どもが、下痢で亡くなった(※7)。

国連WHOは、世界の健康戦略の中で、糖尿病、ガン、心臓疾患、肥満などの生活習慣病予防のため、生フルーツと非デンプン性野菜を合わせて、毎日400g以上食べることを勧告している。また世界ガン予防基金などでは、ガン予防のためには、色とりどりの生フルーツと非デンプン性野菜を少なくとも400g以上、できれば600g以上食べるように推

奨している。ちなみに、日本のガン死亡者数は、現在36・5万人で、3人に1人が死亡している。1981年に年間30万人を超えて以降、年々増加している。(※9)



また、厚生労働省は『健康日本21』プロジェクトの中で、一日当たり100g以上果物を摂っている人が38・6%(2010年)しかないのに、2022年までには、70%以上に増やそうという数値目標を掲げている(※10)。

農林水産省は、毎日200gくだもの運動を推進している(※11)。

さらに日本糖尿病学会でも、フルーツはビタミン・ミネラル補給に大切な食品なので、糖尿病

の方でも、一日当たり、イチゴであれば250g、ミカンであれば200gなど制限はつくが、毎日の生フルーツ摂取を勧めている(※12)。

にも関わらず、日本では医師や栄養士などから「フルーツは太るから、フルーツは糖尿病になるから、食べ過ぎには注意しましょう」と言われることがある。

しかし、一人当たりのフルーツ供給量(非可食部など廃棄量を含む)は、世界平均で203g、北アメリカ275g、ヨーロッパ249g、アジア181gであるのに対し日本はわずか140gしかない。これはOECD加盟、先進34カ国中最下位である(※13)。

また日本人は、生フルーツの一日摂取量(可食部)は、男性では90・2g、女性では108・7gしかなく、特に働き盛りの20〜40代の男性は、平均でわずか40g前後しか食べていない(※14)。

そもそも、世界的に見て、食べ過ぎに関する研究事例はなく、フルーツの食べ過ぎが何gなのか、科学的根拠のあるデータは存在し

ない。食べ過ぎてはいけなと言われる人たちは、根拠のあるデータをもたずして、思い込みで話しているに過ぎない。元々フルーツは大きな可能性があると思っただので、果実を食べ過ぎると、体にどのような変化が表われるのかを調べるために、実験を始めた。

また、フルーツに関心を持ってもらい、フルーツと医学、フルーツと薬学など、フルーツに関する研究者が増えることを期待してのことでもある。果実だけの食生活を続けて、6年以上になるが、至って健康で、風邪などで寝込んだこともないし、健康診断や血液検査でも異常が出たことはない。むしろ、腎機能の指標であるe-GFRは130・4と、骨密度は20歳の男性と比べて30%以上増と、医師も驚く数値が出ている。糖が多いといわれるフルーツだが、最も多いのは水分である。スイカやイチゴなどでは90%、ほとんどのフルーツは85%以上が水分である。しかも、食物繊維が1〜2%、タンパク質が1%、他に脂質、ビタミン・ミネラル・ポリフェノールなど含まれ、糖質はせいぜい10〜20%である(※15)。フルーツは糖

分が多いと言われるが、主成分は水分であり、多くのフルーツでは80%を超える。スイカやイチゴなどは90%が水である。私の夏場の主食はスイカ、冬場の主食はミカンだが、6年以上、水もお茶も飲まず生きられている理由の一つは、喉を潤してくれる水分量の多いフルーツを積極的に食べているからである。

水分に次いで多いのが糖質で、7〜15%です。バナナはやや多く21%。一方、フランスパン55%、食パン44%、白米36%、サツマイモ27%というように、穀物系食品には、フルーツの何倍も多くの糖質(大半がデンプン)が含まれている。デンプンや糖類などのカロリーは4 kcal/gです。糖質が多いとカロリー数値も大きくなる。

主なフルーツは、チョコレート1/10程度、食パンの1/5程度、ご飯の1/3程度しかカロリーがない。イチゴはモヤシと同じカロリーしかなく、チョコレートの6%である。ご飯1膳(150g)のカロリーは、バナナ(可食部)では約3本分、ウンシュウミカン(M寸、外皮除く)では約8個分にある。

総じて生フルーツは、カロリーが低いため、太りづらい食べ物である。私もかつて70kgあった体重が、午前中の食事をフルーツにすることで62kgになった(2009年)。果実だけの実験を始めた時(2009年9月28日)62kgあった体重が、今や52kg。冬には、ウンシュウミカンを毎日20個以上は食べているが、太ることなど全くない。生フルーツが太りやすいというのは、科学的にも、私の経験的にも誤りである。

生フルーツは噛まないといけないので、唾液の分泌量を増やしてくれる。唾液量が増えるので、口腔環境や免疫力の向上も期待できる。また食事の前に生フルーツを食べると、食べ過ぎも抑えられる。カロリーの高いお菓子やデンプン系食品の量を抑えて、代わりに生フルーツを摂るようにすればカロリーコントロールが楽になる。(WHO 国連世界保健機関)は2015年3月、健康増進のためにはできれば、フリーシュガーを25g以下に抑えるよう勧告した(※16)。フリーシュガー(遊離糖)とは、「製造元や消費者が食品に添加する糖類と、蜂蜜・シロップ・

フルーツジュースなどに含まれる天然の糖類」のことです。スプーン一杯のケチャップに4gのフリーシュガーが含まれるように、隠れた糖類にも注意するように促しています。

ちなみに、野菜や生フルーツや牛乳に自然に含まれる糖類はフリーシュガーではない。清涼飲料水を買われた時には、裏面に記載されている成分表をご覧ください。カロリーゼロジュースを除けば、大抵10%以上の糖質(または炭水化物)が含まれている。一般の清涼飲料水には食物繊維がほとんど含まれていないため、記載されている炭水化物や糖質は、ほとんどフリーシュガーになります。500mLのペットボトルを1本飲めば、50g以上のフリーシュガーを摂取することになる。

「健康」と「持続可能な環境」の両方を志向するライフスタイルは「ロハス」と呼ばれる。毎日少しずつでも果物を食べることは、まさに口ハスそのものです。「痩せたい」「ウエストを細くしたい」「小顔になりたい」「生涯健康でおいしいものを食べ続けたい」など、これらは

個人的な欲求である。

これら個人的な欲求に、フルーツを加えればよい。フルーツは、宗教の違いも、右や左といったイデオロギーの違いも、東洋も西洋も、途上国も先進国も、肌の違いも、老いも若いも、男も女も、頭の良さも悪さも、聖人君子も極悪人も、全く関係ない。73億人全ての人に関わるのは「食」であり、どの国でもフルーツは身近な食べ物である。

WHOやFAOや厚生労働省や農林水産省など多くの公的機関が指摘しているように、フルーツは野菜と共に健康増進に役立つ。「毎日果物も食べよう」と意識してもらえれば、果樹園が増えるので、酸素の供給源が増えることになる。さらに、「毎日国産果実を食べよう」と意識してもらえれば、中山間地域の鳥獣害対策、日本の美しい里山奥山の復活、ひいては花粉症の根本対策にもなる。木が増え、花が咲き、果実が増えれば、虫も鳥も動物も喜ぶ。もちろん、木自身も喜ぶ。私たち人間も、フルーツのお蔭で健康増進が図れる。食物の中で唯一、食べてもらいたがっているフルーツは、それ自体

第三段階：マクロ・オーブの観察

佐藤禎花師によってマクロ・オーブ(たまゆら)の動的な変化状況が観察・記録された。なお「たまゆら」とは、オーブにサイ(気)が加算された場合のものをいう。居住空間としての空気中において、非可視の近赤外線領域に潜在する(約1.4eV)マクロ・オーブを、デジタルカメラの液晶面上に写し出し、お願いすると、依頼に応じて、様々に動的に変化する状況が記録された。一例として、マクロ・オーブ(芽オーブ)の動的な変化挙動として、次記が記録された。

1) マクロ・オーブは、柔らかい感じの発光体で、ほぼ球形状であり、大きなオーラを伴う。なお、変化が著しい部分では、2) 昆虫の幼虫に似た形状を持っており、頭と思われる部分がある。丸まるとほぼ球形状であるが、ピンと伸びて、つぎに約90度方向を変え、同時に約180度反転して頭と尾が入れ替わる。また、ピンと伸びて、2部分に分割する場合がある。3) そこでは、1秒以内に反転、反転、球形状、などを数回以上も繰り返す。推察すると、夜空に、動オーブがキラキラ輝いて見える原因は、この反転の為かも知れ

ない。また、オーブは、マクロPKとして存在しているので、オーブの動きに対応して、生体内の神経系統(経絡)が情報交換を担当しているのかもしれない。その他。

なお、検討と考察の結果として、マイクロ・オーブとマクロ・オーブの関係を検討したところ、両者は、ほぼ、同一と判断できる事がわかった。

これらが進めば、あの世または霊界との間の情報交換が可能になるのでは?

フォトンが様々なノイズを吸収して、オーブ(たまゆら)に成るのでは?

さらに、これらを契機にして、心(精神)の科学的な研究が開始される事をお願いしたい、と思います。

(注1) 念写とは、意識(念ずる)の働きのみによって、体外にあるフィルム上に、ある種の形姿を映し出すことをいう。今から105年前に、世界に先駆けて、福来友吉によって念写が発見された。仙台には、福来友吉の業績を記録した(財)福来心理学研究所がある。

が愛です。そしてフルーツこそ、自然との共生を含めた究極の世界平和に導く鍵だと私は確信している。

引用文献

- ※1. 国連砂漠化防止会議(UNCOD)1997年
- ※2. 平成23年度全国の野生鳥獣による農作物被害状況／農林水産省
- ※3. 都道府県別森林率・人工林率(平成24年度)／林野庁
- ※4. 馬場廣太郎、中江公裕・鼻アレルギーの全国疫学調査2008(1998年との比較)耳鼻咽喉科医とその家族を対象として
- ※5. 世界の食料不安と現状2014年報告／SOFI2014
- ※6. Committing to Child Survival: A Promise Renewed ProgressReport 2013／UNICEF
- ※7. 飢餓(いじう)／World Food Programme
- ※8. 2008年度版・飲料水と衛生施設に関する報告書／ユニセフ・WHO
- ※9. 平成25年人口動態統計(厚生労働省)
- ※10. くだもので暮らしを豊かに! 合言葉は「毎日くだもの200グラム」／農林水産省

- ※11. 健康日本21(第2次)の推進に関する参考資料／厚生科学審議会地域保険健康増進栄養部会
- ※12. 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版／日本糖尿病学会
- ※13. FAOSTAT 2011
- ※14. 厚生労働省 平成25年「国民健康・栄養調査」
- ※15. 日本食品標準成分表 2010／文部科学省
- ※16. Promoting fruit and vegetable consumption around the world/WHO-----Original Message-

(中野瑞樹)

☆ ☆

素晴らしい研究であり提言だと思えます。果物により肉類を摂取せずに済めば、病気も少なくなり医療費も減らせるでしょう。ひいては霊性の向上ともなり世界平和への道かも知れません。

当日の参加者は会員12名、非会員8名、計20名でした。講演記録テープはありません。

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

マイクロ・オーブの発見について(念写とオーブの解析)

佐々木 茂美

私たちは、様々な手法を用いてオーブ(たまゆら)の発生機構を検討しております。その一部として、念写の際に発生・生起する微細な光念球の性質を調べたところ、この光念球は、デジタルカメラで撮影されるマクロ・オーブに対応するマイクロなオーブである事がわかりました。

今から約38年前(1977年)に、清田益章師を被験者、小川雄二を研究者として、念写(注1)の機構解明のための基礎実験を行いました。暗缶内に光球(念光球、約1mm径)の発生(映像)が認められ、これの時間変化曲線が記録されました。今回の検討と考察により、これが、マイクロ・オーブである事がわかりました。

つぎに、30年の時間が経過して、研究者の苗鉄軍が、この時間変化曲線をカオス解析したところ、低次元決定論的なカオス過程である事がわかりました(2007)。さらに8年経過して2015年になると、佐藤禎花師により、室内の空気中でマクロなオーブ(たまゆら)の動的な変化が観察・記録されました。

第一段階：マイクロ・オーブの出現と測定

既知の電磁波と室内光の両ノイズを遮断した空間(ブリキ缶、空気中)、並びにその空間内に既知の物理光を加算した空間に、約1mm直径の光球状のマイクロ・オーブが発生し、動的な変化挙動をしめす状況がデジタル・メモリーに記録された。

1) 移動速度は群パルス状で、うねりの様な緩急動作を繰り返す。

2) 移動速度の分布状態は、近似的には正規分布である(最頻値は6.5Hz)が、正確には、形状母数が1.5で表示されるワイブル分布である。これは遷移する確率が時間と共に増加するタイプの確率過程論で表示される。つまり、時間の経過とと

もにより速いオーブが出現する、という性質がある。さらに、電磁波ノイズ並びに室内光ノイズが加算した場合には、最頻値は、しだいに増加する傾向にある(シューマン・レゾナンスの7.8Hzに近づく)。

3) パルス波形のピーク値(オーブの光の強さ)の出現は、ほぼ指数分布である。つまり移動速度と光の強さに対応していない。さらに指数分布は、遷移する確率が時間とは無関係に偶発的に決まる。つまりポアソン過程として存在している。

4) 周波数の分布状態は、ほぼワイブル分布である。さらにオーブが存在している時間や存在していない時間は、ほぼ指数分布で表示される。

5) オーブは変性意識状態下の集中とイメージに関連して、時間や空間を超越して出現する(別報)傾向があるが、出現後は、物質になってしまうので、通常の物理法則に従うことになる、と考えられる。

第二段階：マイクロ・オーブのカオス解析

1) Takens 定理を用いて、記録された曲線をカオス解析したところ、相関次元の値は、 $D2=1.94 \sim 2.25$ であった。これより、動的マイクロ・オーブの運動過程に出現するカオスは、低次元決定論カオス性である事が分かった。つまり、生体内の皮膚表面の2~3個所の経絡、またはチャクラが次元因子(カオスを形成させる変数)として関与している、と推定された。

2) 室内光ノイズ、並びに電磁波ノイズがある場合には、相関次元の値はより高くなる傾向がある。つまり、生体外の空気中にあるノイズが加算すると、カオスの次元因子はより高くなる(多様性を帯びる、複雑になる)。